

腰痛と神経障害性疼痛について

いしむら整形外科(鬼北町) 石村 政二



検査、血液検査などを行い診断を進めますので、きちんと伝えるように心がけましょう。

腰痛を持つ患者さんは極めて多く、誰にでも起こり得る最もありふれた症状の一つです。ただ、腰痛とは症状名であって、その背景には数多くの病態や疾患が隠れています。今回は腰痛の原因と特に注意する症状、そして最近広まってきた治療法についてまとめてみました。

■腰痛の原因

原因は患者さんによってさまざまですが、おおまかには原因のはっきりしている腰痛と原因のはっきりしない非特異的腰痛に分かれます。

原因のはっきりしている腰痛の代表としては、背骨の骨折などの脊椎外傷や、背骨から発生する内臓の腫瘍が転移してできる脊椎腫瘍、細菌や結核菌などが背骨に感染する化膿性・結核性脊椎炎の3つが特に重要です。そのほか、背骨をつなぐ軟骨組織である椎間板が飛び出して神経を圧迫する腰

椎椎間板ヘルニアや、骨の変形や靭帯が厚くなり背骨の真ん中にある神経の通り道が狭くなる脊柱管狭窄症など、神経症状を伴う腰椎疾患も原因のはっきりしている腰痛に含まれます。

非特異的腰痛とは、明らかな原因のない腰痛を一般的にいう呼び方で、例えば、レントゲン写真やMRI検査などで異常を認めない場合や、また背骨の変形などを認めたとしても脚へのしびれや痛みなど神経症状がない場合などは、厳密に原因を特定することは難しく、非特異的腰痛に含むことが多いです。腰痛で最も頻度が高いのがこの非特異的腰痛です。

■注意する症状

腰痛に伴い特に注意する症状がいくつかあり、早めの病院受診が必要です。そのひとつが神経症状で、重篤なものは膀胱直腸障害と呼ばれるものです。これは排泄に関わる神経が、腰椎の障がい

よって圧迫されると現れてきます。尿が出にくい、勢いがない、もしくは失禁してしまうなどの排尿異常と、便秘、便失禁などの排便異常がそうです。

次に重要な神経障害は麻痺とびれです。麻痺は脚の筋肉が思うように動かせない状態のことで、急速に進行する場合や広い範囲に麻痺が広がる時は重篤な疾患のことがあります。しびれとは、ビリビリ、ジンジン、チクチクなどの言葉で表現される状態のことで神経障害性疼痛とも呼ばれています。

また、神経症状以上に危険信号とされるのが、発熱、体重減少、栄養不良などを伴う腰痛と、だんだん痛みが強くなる場合や、安静にしていても痛みが続き、楽になる姿勢がないような腰痛です。このようなときは、脊椎腫瘍や脊椎の感染、もしくは内臓疾患などの検査を必要とすることがあります。病院ではこのような症状を、問診の際、特に重要視し、診察、画像

■神経症状を伴う腰椎疾患の治療

腰痛の治療についてはさまざま方法がありますが、最近、神経症状を伴う腰椎疾患に対して新しい治療が広まってきていますのでここで紹介したいと思います。それは、神経障害性疼痛に対する薬物治療です。神経障害性疼痛とは坐骨神経痛やしびれなどを含む症状で、腰椎疾患などで圧迫や障がいを受けた神経が異常な興奮をすることで起こる痛みです。痛みはビリビリ、ジンジン、チクチクという言葉で表現され、痛みの質は、電撃痛、刺すような痛み、灼熱痛、鈍痛、うずく痛み、拍動痛などがみられます。以前は、このような症状に対して鎮痛剤やビタミン剤で治療していましたが、あまり効果を認めないことが多かったようです。最近「プレガリン」などの神経障害性疼痛治療剤が使われることが多くなっており、症状を改善しやすくなっています。腰痛を認めたら、それに伴う症状をチェックして、早めの医療機関受診をお勧めします。